

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開 (2014年7月号)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 6月の人民元相場（対米国ドル）は、基準値が6ヵ月ぶりに上昇、現物実勢は2ヵ月連続の上昇となった。現物実勢は初旬こそ軟調だったものの、基準値が上昇したことを受けて上昇に転じ、当月高値で取引を終えた。また、アジア新興国通貨は昨年末より高い通貨が多く、ここで人民元が下落するとアジア新興国内でも不満が高まりかねない状況にある。
- 7月の人民元（現物実勢）は1米国ドル=6.12~6.24元のレンジで動くとしている。4-6月期の経済成長率が前四半期の伸びを上回れば、戻り高値にトライする展開になると思われる。但し、住宅価格が下落するなど不安材料もあるため7月中の上昇幅は限定的だろう。

[前月の動き]

6月の人民元相場（対米国ドル）は、基準値が6ヵ月ぶりに上昇、現物実勢は2ヵ月連続の上昇となった。端午節明けの第1営業日（3日）に1米国ドル=6.1710元と当月安値を付けた基準値は、9日には前営業日より0.0138元高い同6.1485元に大幅上昇¹、10日には同6.1451元の当月高値を付けた。その後は同6.15元台で一進一退、6月末は前月末より0.3%元高・ドル安の同6.1528元で終えた。基準値が前月末より上昇したのは昨年12月以来6ヵ月ぶりのことである。他方、許容変動幅²の範囲内で動く現物実勢は、初旬は軟調で5日には当月安値となる1米国ドル=6.2550元（スポット・オファー、中国外貨取引センター）を付けたものの、基準値が大幅上昇すると現物実勢も上昇に転じ、13日には同6.2112元を付けた。その後一旦は同6.23元台まで押し戻されたものの、下旬には再び上昇、6月末は前月末より0.7%元高・ドル安の同6.2040元と当月高値で終えた（図表-1、2）。

(図表-1) 人民元（対米国ドル）の価格推移

	基準値		現物実勢	
		前日比 (注)	オファー	ビッド (注)
5月末	6.1695	-	6.2487	6.2471
6月3日	6.1710	▲0.0015 (当月安値)	6.2548	6.2541
6月4日	6.1693	▲0.0017	6.2506	6.2504
6月5日	6.1708	▲0.0015	6.2550	6.2545 (当月安値)
6月6日	6.1623	▲0.0085	6.2512	6.2498
6月9日	6.1485	▲0.0138	6.2409	6.2397
6月10日	6.1451	▲0.0034 (当月高値)	6.2261	6.2249
6月11日	6.1506	▲0.0055	6.2284	6.2277
6月12日	6.1516	▲0.0010	6.2190	6.2182
6月13日	6.1503	▲0.0013	6.2112	6.2105
6月16日	6.1537	▲0.0034	6.2260	6.2250
6月17日	6.1529	▲0.0008	6.2272	6.2263
6月18日	6.1559	▲0.0030	6.2314	6.2310
6月19日	6.1531	▲0.0028	6.2296	6.2287
6月20日	6.1524	▲0.0007	6.2260	6.2254
6月23日	6.1557	▲0.0033	6.2270	6.2266
6月24日	6.1545	▲0.0012	6.2314	6.2308
6月25日	6.1555	▲0.0010	6.2344	6.2343
6月26日	6.1538	▲0.0017	6.2260	6.2249
6月27日	6.1543	▲0.0005	6.2195	6.2179
6月30日	6.1528	▲0.0015	6.2040	6.2036 (当月高値)

(資料) CEIC(中国外貨取引センター)

(図表-2)

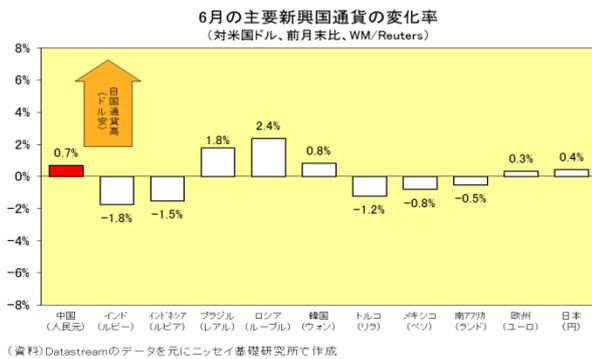


¹ 6月9日に基準値が大幅上昇した理由は定かではないが、景気指標が上向いていたことに加えて、7月9-10日には北京で米中戦略・経済対話を控えていたことも背景にあると見ている。

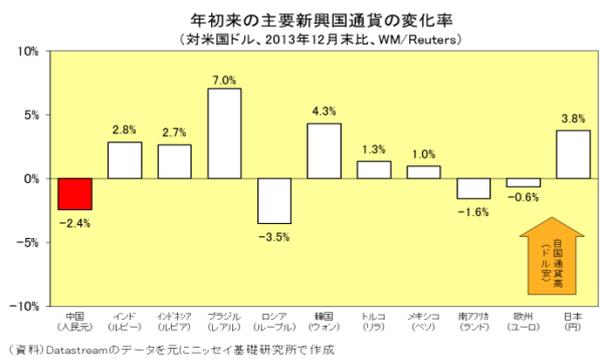
² 許容変動幅は、3月14日までは基準値±1%だったが、3月17日より基準値±2%へ拡大されている

世界通貨の動きを見ると6月はまちまちの動きとなった(図表-3)。また、昨年末比で見ると、人民元とウクライナ問題を抱えるロシア(ルーブル)は下回る水準にあるが、韓国(ウォン)は昨年末比4.3%上昇、6月に下落したインド(ルピー)やインドネシア(ルピア)も同3%弱上昇しており、ここで人民元が下落するとアジア新興国内でも不満が高まりかねない状況にある(図表-4)。

(図表-3)



(図表-4)

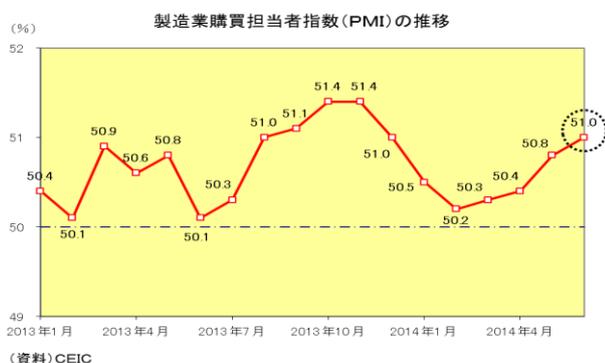


[今後の展開]

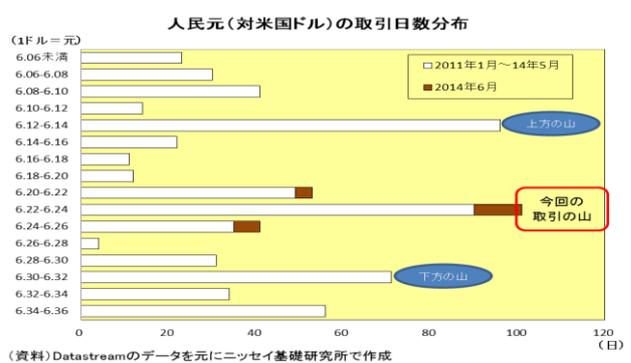
さて、7月の人民元(現物実勢)は1米国ドル=6.12~6.24元のレンジで動くとしている。中国で1日に発表された製造業PMIは4ヵ月連続で改善しており(図表-5)、7月16日に発表される4-6月期の経済成長率が前四半期の伸び(前年同期比7.4%増)を上回るようだと、現物実勢は戻り高値にトライする展開になると思われる。但し、住宅価格が下落するなど新たな不安材料が浮上していることから、7月中に上昇する幅は限定的と見ており、昨年秋に人民元が上昇する局面でもみ合っていたレンジ(同6.12-14元)が当面の上値のメドとなるだろう(図表-6)。

なお、筆者の予想に反して現物実勢が下落するケースを想定して見ると、中国で16日に発表される成長率が低下する、或いは米国で長期金利が急上昇してアジア新興国通貨が大幅下落するケースが考えられる。その場合の下値のメドは、中国人民銀行による元買い・ドル売り介入が控えていると見られる水準(同6.27元)と思われる。

(図表-5)



(図表-6)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。